

韓国 Baby Box の過去、現在、そして未来

イ ジョンラク (ジュサラン (主の愛) 共同体教会 創設者)

ジュサラン (主の愛) 共同体教会の創設者イジョンラク牧師が重度の障害を持つ息子さんをよく世話したという噂が広がると、障害のせいで親から捨てられる赤ちゃんが次々にイジョンラク牧師のところに送られました。ある日は門の前に、ある日は駐車場、またある日は教会の前の公衆電話ボックスに赤ちゃんが置かれていました。

しかし、ある肌寒い春の日、午前3時ごろ、ひとりの男性から電話がかかってきました。自分の子供を教会の門の前に置いて行くから世話をしてほしいという父親からの電話でした。

慌てて教会のドアを勢いよく開けて走り出たイジョンラク牧師は魚用の段ボール箱の中に入れられている赤ちゃんを見てショックを受けました。一目でダウン症候群だとわかる赤ちゃんが魚の匂いの染みついた毛布に包まれ寒くて震えていたのです。段ボール箱の匂いに釣られて周囲をうろついていた野良猫を追いはらいながらイジョンラク牧師は、あと少し遅れたら赤ちゃんが寒さと猫の被害にあったかもしれないという思い胸をなでおろしました。

このことがあって、イジョンラク牧師は「赤ちゃんが親から捨てられる緊迫した状況下でも命を安全に保護できる方法」を見つけるために悩み始めました。そんな中あるニュースを通してチェコ共和国で運営されている Baby Box に関する事を知り、これを契機に先進国の類似事例を集中的に研究しました。

「捨てられた子供たちを安全に世話し生かすこと」が神から自分にゆだねられた使命であると確信したイジョンラク牧師は祈りと研究を重ね、2009年12月に韓国で初めて Baby Box を設置し運用することになりました。

Baby Box が最初に設置されたとき Baby Box に入ってくる赤ちゃんの数は一年で平均 20 ~ 30 人に過ぎました。しかし 2012 年に 8 月に改正された養子縁組特例法の施行を契機に大きな変化しました。生みの親による出生登録を義務化するこの法律によって、10 代の未婚の母、婚外関係によって生まれた子供のように出生届をすることができない親の赤ちゃんが Baby Box に入れられ始めたのです。

2012年79人、2013年252人、2014年250人... 2017年213人、毎年200人以上の赤ちゃんが保護され、2009年12月から2017年12月末までに計1300人の赤ちゃんが Baby Box を介して保護されました。

Baby Box が乳児の遺棄を助長するという一部の批判もありますが、ジュサラン (主の愛) 共同体はこれは命を生かすための神からの使命だと考え批判を耐えました。同時に専門性を高めるために努力しました。

しかし、Baby Box は最後の緊急救済所であって、最初の、また最良の選択ではありません。したがってジュサラン (主の愛) 共同体は、母親が赤ちゃんを Baby Box に入れないで良いように先制的な支援を強化しました。未婚の母の子育てを支援するさまざまなプログラムを運営しており、何よりも相談を強化して母親が養育を放棄する前に、本人と赤ちゃんの将来について検討するようにしました。また、乳児の遺棄急増を引き起こした要因が養子縁組特例法上の出生届にあると判断したため、乳児の遺棄の問題を解決するための方法として秘密出産に関する特別法案を作成、国会に提出することもしました。